留学期間：2019 年 2 月～2020 年 1 月
北京師範大学
A 類学校心理　大河内雛子
留学開始学年　3 年生

大学 1 年生、学芸大学に入学したばかりのころは自分が中国に留学に行くなんて 1 ミリも思っていませんでした。転機が訪れたのは大学 2 年生の終わりです。学芸大主催の北京師範大学に行くツアーに参加した際、すでに留学されている先輩の「雑談が面白い先生はいい先生」という言葉を聞き、私はこのままでは児童に語れるような雑談(経験)がない、と思い留学を決心しました。また、奨学金が整っていて金銭面での心配が要らないのも留学の大きな後押しとなりました。といっても語学は 1, 2 年生に第二外国語として勉強したレベルです。留学したばかりの頃は言語力が 0 に等しかったです。そのため、最初はこれから先どうなるのだろうと不安でいっぱいでした。でも、一度も帰りたいとは思いませんでした。向こうでの生活にもすぐに慣れ、日本にいたら出会えなかった人に出会い、できなかった経験をたくさん積むことで毎日が非常に楽しかったです。

【学校生活】

私は北京師範大学漢語文化学院に所属していました。この学部の学部生は留学生しかいません。1 年間、中国語を学ぶためのクラスに所属し、他の国の人と一緒に毎日勉強をしていました。クラスは中国語のレベルごとに分かれています。どのクラスでも素晴らしい先生方がついてくださり、中国語力は飛躍的に伸びました。政治的に対立している国同士も、クラス内では関係ありません。出身など関係なくみんな仲良かったです。アメリカ人、ロシア人、ウクライナ人のクラスメート 3 人がクリミア半島での紛争やシリア内戦について語りあっているのを見たときは、とても刺激的でした。

寮・スーパー・病院・食堂はすべて校内にあり、校内で何でもできます。寮はいろいろありますが、私は奨学金生だったので無料で入れる一番安い、風呂トイレ共同の二人部屋でした。1 年間ずっと一緒に過ごしてきたルームメートは韓国人です。1 度も喧嘩をしていませんし、最後には二人 1 週間旅行に行きました。彼女には感謝の気持ちでいっぱいです。彼女は韓国で小学校の先生をしています。中国語でのコミュニケーションは難しかったですが、韓国の教育事情や子供への向き合い方をたくさん教えてくれました。帰国前、二人で私が小

学校の先生になったら、お互いのクラスの児童同士、文通の授業をしよう、と約束しました。我ながらとても夢のある約束が出来たな、と思っています。

【学校生活以外】

平日は授業、休日は中国人やほかの国の友人と遊んですごしていました。日本にいたとき、中国人の友人を作らなかったので、現地での友達作りは一苦労でした。特に、最初の方は言いたいことも言えないし、聞き取りもできないのでなかなか友達が出来ませんでした。しかし、北京には日本人と中国人の交流会などたくさんの友達作りの機会があります。これは北京に留学する一つの魅力だと思います。

また、週末だけでなく長期休暇にもいろいろなことをしました。私は最初から一時帰国はしないつもりだったので、2 か月半の夏休みを有効活用しよう、と決めていました。そこで 8 月の 1 か月は上海に行き、インターンをしました。仕事内容の指示も中国語でしたが、何とかついていくことが出来、日本の会社にはない良いところもたくさん見られました。中国人はいい意味で緩いです。みんな出勤時間はバラバラで、仕事中もデリバリーを次々と頼みます。服装も自由で上下関係も厳しくないため、過度なストレスがないように感じました。（ただ、規律がないため仕事の効率が悪いとも感じました。）

留学生活はチャレンジの連続でした。しかし、そのチャレンジは敢えて自分に課したものです。留学という貴重なチャンスをいただけた以上、この一年を実り多いものとするために色々なことをしました。中国の企業でインターンをする、孤児院にボランティアに行く、20 時間以上のタバコ臭い寝台電車に乗る、標高 4000 メートル以上の山に行ってみる…どれも楽しかったし学びになりました。留学を終えた今も、色々なことにチャレンジしようと心掛けています。長いようで短い大学生活の貴重な 1 年間を留学に捧げることが出来て、とても幸せでした。